

別の顔



after

際もやめませんでした。理由は、ピアノが大好きだから。小学校高学年の時は反発もしていました。が、6年生で南日本ジュニアピアノコンクールで優秀賞をもらったときに「指導を素直に聞いていれば結果が出るんだ」と感じ、それ

以降は反発することもなくなりました。一番の思い出は、全国大会で入賞し「シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA」に出場できたこと。好きで続けている事なので嫌と感じたことはなく、難しい箇所があっても「やってやる！」と逆に燃えます。医者になるのが夢なので、音楽系大学へは進学しませんが、これからも大好きなピアノは続けていきます。



鹿屋高校
やまぐち まゆこ
山口 真由子 さん(2年生)

みんなの意見をまとめることが好きで、1年生からクラス委員等を務める。鹿屋高校100周年記念事業のアメリカ短期留学生に選ばれており、とても楽しみにしている。



母がピアノの先生をしており身近にピアノがある環境で、3歳から指導者がついてピアノを始めました。習字や水泳もしていました。ピアノだけはやめていません。また、沖縄へ転校した



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ！



タイム トラベル ～温故知新～

36話

ごみ処理の歴史



本市におけるごみ処理は、昭和31年に「鹿屋市清掃条例」の施行に伴い、同34年から塵埃処理車(三輪トラック)一台によりごみ収集を開始しました。当時は台所から出るごみが大半で、ほとんど堆肥として消化し、危険物などについては山や防空壕跡に廃棄をしているような状態でした。

昭和42年からは西原埋め立て地の使用が開始されました。面積は3万9,163㎡でしたが、7年後には新栄町に面積9万3,303㎡の新たな埋め立て地を開設。高度経済成長に伴い、市民生活の向上と相まってごみの排出量も年々増加し、

参考：東京ドームの敷地面積は約4万6,755㎡



▲鹿屋市清掃センターは肝属地区清掃センターが稼働してからは、資源物を取り扱う「鹿屋市資源センター」に名称を改めました。

市の塵埃処理車では廃棄物の処理に応じきれず、民間の2業者がごみ排出量の大きい商店や工場、病院などの処理にあたっていました。

昭和61年には、下高隈町に総面積14万8,384㎡の埋め立て処分と焼却が可能な「鹿屋市清掃センター」を新設。平成20年に現在も稼働している「肝属地区清掃センター」の供用が開始されるまで市内のごみを処理し続けました。肝属地区清掃センターの稼働後に出た焼却残渣や不燃物、処理困難物などは、肝属地区大根田最終処分場(錦江町田代)と鹿屋最終処分場(下高隈町)に埋め立てられて処理されています。

資源は有限です。一人ひとりがごみを減らし、限りある資源を未来につなぐことが大切ではないでしょうか。